

実践報告 5

英語表現Ⅱにおける発表活動とその評価

－伝える力の育成を目指して－

愛知県立西尾高等学校 教諭 筒井 彩

1 実践のねらい

本校は全日制普通科で各学年9クラスを有する西尾地区の伝統校である。知性高く、情操豊かで、進取の気質、自主な精神、強固な克己心を備えた生徒育成を教育目標とし、日頃から甘えのない文武両道・自主性という言葉が重んじられている。また、平成25年度より「あいちスーパーイングリッシュハブスクール」として国際理解教育の充実を図っており、理数教育とともに将来の夢につながる質の高い刺激を与えることに全校を挙げて取り組んでいる。

(1) 生徒の学びの現状

生徒は概して、熱心に学習に取り組んでいる。授業中の活動にも活発に参加し、楽しみながら学びを進め、家庭学習にも計画的に取り組むことができる生徒が多い。その一方で、週末課題やテスト前の勉強だけに終始する生徒もおり、学力差は広がる傾向にある。

(2) 指導と評価における課題

現2年生に対しては、1年次より各学期末にコミュニケーション英語Ⅰと英語表現Ⅰの授業でパフォーマンステストを行ってきた。1年次は音読や簡単な会話といった基礎的な力を測っていたが、2年生ではまとまった量で自己表現することに重きを置いたテストを実施することとした。また、定期考査や、教員と1対1で行うパフォーマンステストに加え、授業内の活動についても適切に評価する必要がある。

(3) 身に付けさせたい力

「勉強ができる」「大学入試を突破できる」という視点からの知識中心の英語力ではなく、4技能をバランスよく使えるコミュニケーション能力を身に付けさせたい。特に、言葉として「伝える」ということを意識した英語力を育成することが大切であると考えます。

本実践では、特に発表活動に焦点を当て、生徒が自分自身の大切なものについて相手に伝える力を育成する指導と評価の在り方を探っていく。

2 実践の計画

(1) 学習指導計画

ア 言語活動の工夫

今回の発表活動は、自分自身が大切にしている物を持参し、聴衆にスピーチをするという Show and Tell を行う。発表に至るまでの段階的な指導として、ブレインストーミングやアウトライニングを取り入れ、時間をかけ慎重にアイデアを練ることから始める。その際に、モデル文を参考にして書くべき内容についてペアで議論するとともに、効果的に相手に伝えるために構成も意識させる。そして、構成を段階的に考えながら文章を構築し、スクリプトを完成させる。最終的に、書いたスクリプトを

基にクラス全体で Show and Tell を実施する。

イ ワークシートの工夫

「ブレインストーミング → アウトライニング → エッセイライティング」という指導手順に従い、生徒が自分の考えやアイデアを書き込んだり、整理したりすることができるワークシート【巻末資料①】を準備した。発表を聞く際の聞き手用のコメントシート【巻末資料②】を用意して、記入後にそれを発表者に渡すことで、発表者が聞き手の率直な感想を知ることができるようにした。

(2) 評価計画

ア パフォーマンス課題・ルーブリック

Show and Tell の活動を以下のルーブリック【資料 1】を使って評価する。生徒一人当たりの持ち時間は 1～2 分とし、教壇の上でクラス全員に向けて発表する。担当教員 6 名がこのルーブリックを共有し、第 2 学年全 18 クラス（少人数展開）の生徒を評価することで成績に反映させる。

【資料 1 パフォーマンス課題のルーブリック（評価の観点：外国語表現の能力）】

評価規準	採点基準（ ）は点数	Score	Total
自分が大切にしているものについて、論理的で説得力のある文章を書くことができる。（内容）	A（4）：その物の紹介から、それにまつわる話を自分なりに深めており、説得力がある。 B（2）：展開や論が浅く、説得力に少し欠けるが、話の筋は通っており、その物の紹介やそれにまつわる話がされている。 C（0）：話の展開があちらこちらに行っており、論理的でない。あるいは情報量が少なく、その物の紹介やそれにまつわる話が言及されていない。	/4	
書いた文章を、効果的に聴衆に伝えることができる。（英語）	A（4）：言いたいことが十分分かり、間違いが少しある程度で、聞きやすい。 B（2）：間違いや分かりづらい箇所がいくつかあるが、言いたいことがおおむね分かる。 C（0）：言っている英語が理解できない。言いたいことはなんとなく分かるが、語順や単語の使い方などで間違いが多く、理解するのに苦労し、確認をしないと難しい。	/4	
書いた文章を、効果的に聴衆に伝えることができる。（デリバリー）	A（4）：しっかりと聴衆の目を見ながら、適度な声量で話し、聴衆に対して伝えようとする態度を感じる。 B（2）：原稿を頼ることも多く、伝えようとする態度が十分ではないものの、原稿から時折目を離して聴衆を見ており、適度な声量で話そうとしている。 C（0）：ほとんど目を見ることもできず、原稿を読み上げるだけになってしまっている。声が小さかったり、表情が暗かったり、間の置き方も不十分で、聴衆に対して伝えようとする態度が見受けられない。	/4	/12
	その他：加点・減点 ・1分に満たない場合、もしくは2分以上の場合はマイナス5点。 ・原稿を持たずに発表台に立つとプラス2点。		

(3) 単元構想

ア 使用教科書・単元名

Departure English Expression II (大修館)

Part 4 Lesson 1 Show and Tell “Something I cherish”

イ 単元の目標と言語活動

【単元の目標】

自分が大切にしているものについて、聞き手に分かりやすく説明することができる。

【言語活動】

・「ブレインストーミング → アウトライニング → エッセイライティング」のように段階的に構成を考えて、論理的な文章を書く。

・書いた文章を基にして、聴衆を意識して効果的に1分～2分程度で発表する。

ウ 単元のCAN-DO（4技能ごとの学習到達目標の設定）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法	学習到達目標	評価方法
・書いた文章を効果的に聴衆に伝えることができる。	・活動の観察	・自分が大切にしているものについて、論理的で説得力のある文章を書くことができる。	・ワークシート	・クラスの発表を聞いて内容を理解することができる。	・コメントシート ・活動の観察	・モデル文を読み、Show and Tellに必要な構成や内容を理解することができる。	・活動の観察

エ 単元の評価規準（4観点ごとの評価規準の設定）

評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
評価規準	①ペアで協力して、積極的に議論している。 ②クラスの発表に積極的に耳を傾け、適切にコメントしている。	①自分が大切にしているものについて、論理的で説得力のある文章を書くことができる。 ②それを効果的に聴衆に伝えることができる。	①クラスの発表を聞いて内容を理解することができる。 ②モデル文を読み、Show and Tellに必要な構成や内容を理解することができる。	①論理的な文章を書くために必要な文章構成や考えの整理の方法を理解している。
内容のまとめ	①話すこと ②聞くこと	①書くこと ②話すこと	①聞くこと ②読むこと	①書くこと ①話すこと
評価方法	①②活動の観察 ②コメントシート	①ワークシート ②パフォーマンスシート (Show and Tell)	①コメントシート ②活動の観察	①ワークシート ①活動の観察

オ 指導と評価の計画

時間	ねらい, 学習活動, 指導上の留意点	評価の観点	評価方法
1	<p>[ねらい] 自分が大切にしているものについてモデル文を読み, Show and Tell に必要となる構成や内容を理解した上で, 自分のアイデアを列挙し, 関連付け, 簡単なアウトラインを作ることができる。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 モデル文を読み, どんな構成であるか, どのような内容を伝える必要があるかペアで考える。 2 自分が大切にしているものについて, 思いつく限りの語彙や表現を書き出す。 3 ブレインストーミングで考えたアイデアをマインドマップの形式で関連付ける。 4 マインドマップから, 簡単な導入・本論・結論をつくる。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動1では, 辞書を使わず, 自分の知っている英語で話すよう指示する。また, 一方的なスピーチではなく, 意味のあるやりとりとなるように, 聞き手に手助けや質問をさせる。 ・活動2では, スピーチに必要かどうか取捨選択をせず, できる限り書き出すよう促す。 ・活動3では, 関連付けしながら, 取捨選択し, 必要であれば追加していくことを, 適宜伝える。 	関・意・態, 理解 表現, 知・理	活動の観察 ワークシート 活動の観察
2	<p>[ねらい] 前時で書いたアウトラインに肉付けをし, パラグラフ・ライティングをする。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 簡単なアウトラインに補助となる文章を補って肉付けをする。 2 アウトラインに基づき, 3段落のスキプトを書く。 3 チェックリストに基づき, 推敲する。 <p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単なる事実の羅列にならないように注意する。 ・書き終わったら, 必ず推敲するよう促す。 	表現, 知・理	ワークシート 活動の観察
3	<p>[ねらい] 前時で書いたスキプトを基に, Show and Tell を行う。</p> <p>[学習活動]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発表時に注意すべきことについてペアで考える。 2 それに基づき, ペアで練習する。 3 全員が全体の前で発表する。聞き手はコメントシートに記入する。 	関・意・態 表現, 関・意・態	活動の観察 パフォーマンス ステスト

<p>[指導上の留意点]</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手に伝わるような発表の仕方，話し手が話しやすいような聞き手の態度について指導する。 		<p>コメントシート</p>
--	--	----------------

(4) アンケート調査

Show and Tell を実施後（3時間目）に調査用紙【巻末資料③】に回答させる。対象は第2学年全18クラス（少人数展開）とする。調査項目（1）から（6）までは5段階での回答とし，項目（7）及び（8）は自由記述とする。

3 実践と考察

(1) 授業における言語活動の取組状況

初めのモデル文の構成の理解，アウトラインとスクリプトの作成，そして Show and Tell まで，生徒は終始集中して取り組んでいた。段階的にスクリプトを書く際には，アイデアを練り何度も変更を加えながらよりよいものに改善しようとする生徒もいれば，アイデアが深まらず苦戦する生徒も見られた。

Show and Tell を通してクラスメイト自身についての発表を聞くことは生徒にとって興味深いものであり，普段目立たない生徒が派手なギターやスパイクを見せた時には自然に歓声上がるなど，大半の生徒が発表を聞くことを楽しんでいた。発表をする際は，普段から人前に立つ機会が少ないこともあり，全体的に緊張した様子が見られた。原稿を見ながら発表する生徒も多かった。

(2) 評価の実際

ア パフォーマンスの評価

計画どおり，単元の終わりに Show and Tell を行った。内容に関しては，ほぼ全ての生徒が B（2点）に相当する「物の紹介やそれにまつわる話」をしっかりと構成できていた。しかし，スピーチの深め方がまだ十分とはいえず，A（4点）に達する生徒は多くなかった。【資料2】に評価の例を示す。

【資料2 生徒によるスクリプト：内容の評価 A（4点）と B（2点）の例】

評価 A（4点）

Please look at these pictures. These are the things I treasure the most. I visited the United States last year throughout the project called KAKEHASHI Project. These pictures were taken during the trip. That was the first time in my life to have an opportunity to meet so many people in a foreign country. (中略) I won't forget these people and the experience forever. I want you to think about the importance of meeting new people and that they may give you a new way of thinking. (原文のまま)

評価 B（2点）

Please look at this pictures. I went to America last year and bought it. It was the first time to go abroad for me. This experience is my treasure. (中略) I could learn only few things but I had really good time in America. I'll never forget this experience. I want to return to America someday. (原文のまま)

英語に関しても，おおむね理解できる英語で Show and Tell を行う生徒がほとんどであった。一方，

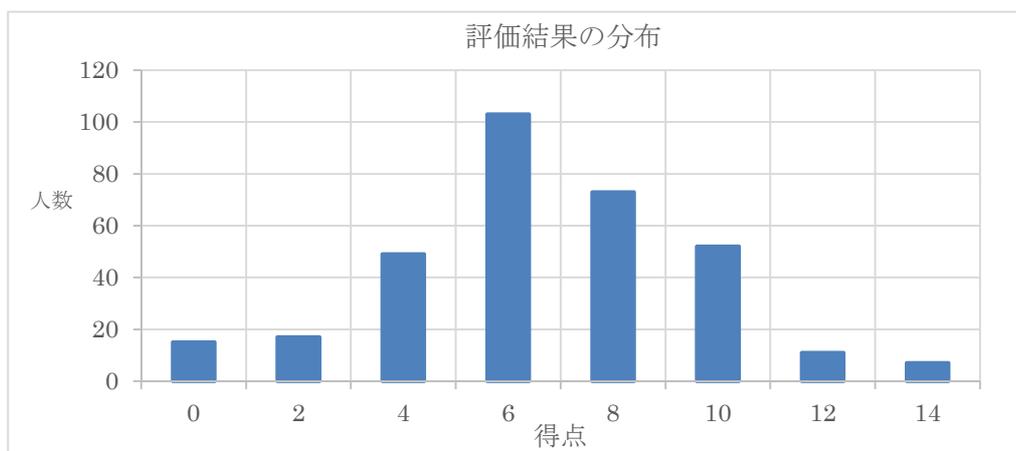
推敲が十分になされていない生徒や発音練習が十分できていない生徒も一部見られた。

デリバリーについては、Aに達する生徒からBに達しない生徒までさまざまであった。生徒の中には、原稿を持たずに発表台に立ち、自信をもって堂々と伝えようとする者もいた。この生徒にはA(4点)評価を与え、更に加点した。

イ 評価結果の分布

評価結果は、最高14点、最低0点であり、平均点は6.5点、分布は【資料3】のようになった。0点や2点の生徒はあまり多くならないと予想していたが、制限時間内に発表をまとめることができず大きく減点された生徒が少なからずおり、これらの生徒は発表自体の質も決して高くなかったため、0点となってしまった。

【資料3 評価分布表】



ウ 生徒へのフィードバック

Show and Tell についての評価は成績に反映させるとともに、生徒の発表に対するフィードバックとして、各生徒が記入したコメントシート(内容・デリバリーは5段階、コメントは自由記述)【巻末資料②】及び教員が記入した同様のコメントシートを裁断して発表者ごとにまとめ、発表者に渡した。コメントは、実際に見せた物やその話についての感想が多く、生徒同士が互いのことを知るきっかけとなったことが分かった。

(3) 事後アンケート結果

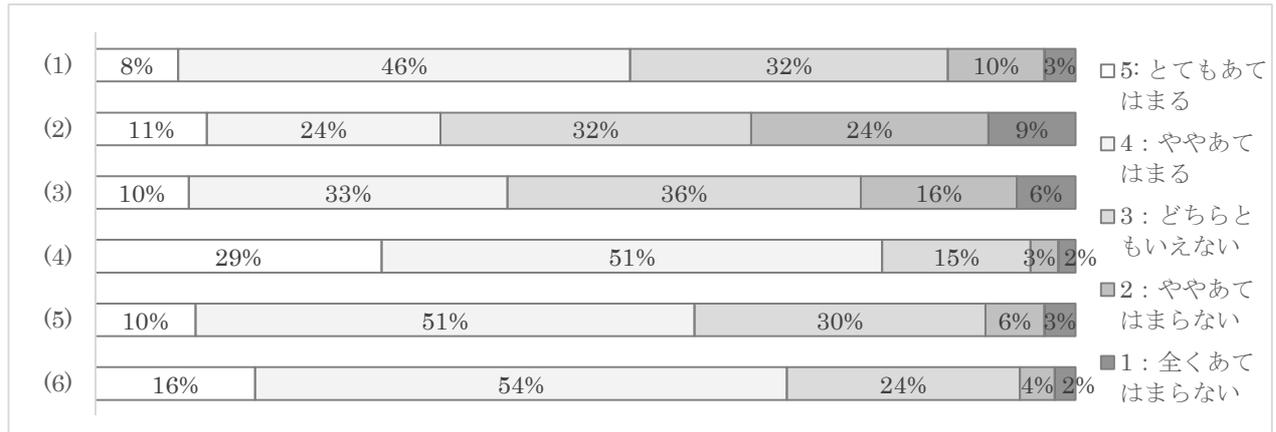
アンケートは284名の生徒に対して行った【資料4】。

項目(1)「原稿作成：構成に気を付けて、論理的に書くことができた」では、54%の生徒が「とても／ややあてはまる」と肯定的な回答をしており、過半数の生徒が単元の「書くこと」の目標に到達したと感じている。

項目(2)「練習：書いた文章を何度も読む練習をした」では、「とても／ややあてはまる」と回答をした生徒が35%、「やや／全くあてはまらない」と否定的な回答をした生徒が33%であったことから、練習に対する意識付けや練習時間の確保が十分ではなかったと考えられる。

項目(3)「発表：クラスメイトとアイコンタクトをとるなどして、聴衆を意識して発表できた」では「とても／ややあてはまる」と回答をした生徒が43%、「やや／全くあてはまらない」と回答した生徒が22%であったことから、練習を十分にさせて自信をもたせたり、聴衆をもっと意識させたりする指導が必要であったと考えられる。

【資料4 事後アンケート結果】



項目(4)「発表：クラスメイトの発表をしっかりと聞くことができた」では、80%の生徒が「とても／ややあてはまる」と回答しており、Show and Tellを通して、生徒のコミュニケーションへの関心・意欲・態度が高まったと考えられる。

項目(5)「発表：クラスメイトの発表を理解することができた」では、61%の生徒が「とても／ややあてはまる」と回答しており、多くの生徒が単元の「聞くこと」の目標に到達したと感じている。

項目(6)以降に関しては、生徒の評価に対する意識調査を目的とした。項目(6)「評価：今回のように英語で発表する力を評価される機会は必要だ」では、70%の生徒が「とても／ややあてはまる」と回答している。

項目(7)「上記6の回答に対して、なぜそのように思いましたか」という自由記述では、「将来発表することがあるから」「人前で話す機会は大切だから」という回答が最も多く、続いて、「英語を話すことに対して意識が高まるから」「英語力(スピーキング力)が付くから」という回答が多かった【巻末資料④】。

また、項目(8)「今後このような発表があると想定すると、それに向けてあなたがすべきことは何ですか」という自由記述では、「練習をしておく」という回答が最も多く、次に「アイコンタクトや自然なデリバリーに気をつける」といった発表の仕方、そして「文法」「発音」「語彙」などに関する回答が続いた。

以上の結果から、クラス全体で発表活動を行うことに対しても、また評価されることに対しても、生徒は前向きであり、今回の反省を次に生かそうとしていることが分かった。

(4) 考察

ア ねらいの達成状況

Show and Tellを単元構想の中心として、構成を意識したスクリプト作成に取り組みさせた上でクラス全体での発表活動を行ったところ、生徒は時間をかけてアイデアを練り、推敲をしながら、言いたいことをうまくまとめて伝えられるようにと努力していた。発表においては、原稿を持たずに発表に臨む生徒も見られ、また、聞き手であるクラスメイトは一生懸命理解しようと発表に耳を傾け、その上でコメントを書くなど、デリバリーへの意識を根付かせることはできた。

授業後にクラスメイトからのコメントシートを受け取り、熱心に読んでいた生徒の姿も印象的である。友人からの評価に喜ぶと同時に、次への改善点についても気付かされることとなり、学習意欲や表現力の向上につながることを期待できる。また、Show and Tellを行った後の休み時間には、発表内容を話題にしている姿も見受けられ、発表がさらなるコミュニケーションのきっかけになったと確

信している。

イ 指導手順について

1時間目に自分が大切にしているものについてモデル文を読み、Show and Tellに必要となる構成を理解した上で、自分の文章を書き始めたのはとても効果的であったと考える。型にはまってしまうかもしれないが、伝えたい内容を整理する上での手助けとなっていた。一方、自分のアイデアを列挙し、マインドマップの形式で関連付ける段階を苦手とした生徒も多く、「アウトラインから始めたい」という意見も見られたので、今後の指導の参考にしたい。

スクリプト作成については、1・2時間目に書くことに時間を多く費やしたものの、なかなか書き終えることができず、3時間目への持ち越しとなってしまった。そのため、3時間目には練習時間を十分に確保することもできないまま、発表を行うクラスも多々あった。事後アンケートでは、生徒は「練習が十分にできていなかった」「次回は練習をしておきたい」と考えていることが分かった。ペアによる推敲や練習の時間をもう1時間確保するなど、余裕をもった指導計画が必要だったと言える。

ウ 評価方法について

評価はルーブリックに基づいて、各クラスの担当教員によって行われた。評価結果を比較すると、教員Bは習熟度によるクラス分けで上位のクラスを担当しているために平均点が高かったものの、それ以外は教員間での大きな差は見られなかった【資料5】。ルーブリックのおかげで評価の信頼性が確保できたと言える。

【資料5 教員別の平均点】

教員	A	B	C	D	E	F
平均点	6.2	8.4	6.5	5.7	6.5	5.8

ルーブリックに挙げた構成、英語、そしてデリバリーの三つの評価項目は、本単元で身に付けさせたい外国語表現の能力を測るのに適切であったと考えている。担当教員からは、「メッセージを的確に伝えるためには、『英文の論理的な構成』『間違いの少ない英語』『声の明瞭さやアイコンタクト』が欠かせない。その意味で、今回のルーブリックでは『聞き手に分かりやすく説明することができる』という漠然とした表現である単元の目標を、分かりやすく項目化することができた」という意見や、「発表者の点数と聴衆の理解度は比例していたようであった」という声もあった。このことから、担当教員の実感として、ルーブリックの評価項目や採点基準も適切であったと考えられる。

発表を時間内に収めることができない場合には5点を減点するというルールを設定した意図は、生徒が書く分量や話すスピードなどに注意して準備し、練習を重ねた上で発表に臨むようにすることであった。このことは生徒に予告していたのだが、1分に満たない、もしくは2分をオーバーしてしまう減点対象者が予想以上に多く、意図に反する結果となった。生徒が努力してスクリプトを作成し、発表した結果が、減点により0点または0点に近い評価になることは適切とは言えない。よって、意図をしっかりと伝えた上で十分に練習させるとともに、発表時間を含めた評価項目をルーブリックに組み込むべきであったと考える。

一方、原稿を持たずに発表すれば2点を加点するというルールに関しては、対象者が予想より大幅に少なかった。しかし、原稿を持たずに発表した生徒は総じて発表内容もよく高得点となっていたことから、今後は、無条件に加点するのではなく、ルーブリックのデリバリーの評価項目に含めていきたい。

4 今後の課題

本実践では Show and Tell という具体的な活動を扱ったが、今後、スピーチ、プレゼンテーション、そしてディベートと、難易度の高いものへ移行していく予定である。いずれにしても、内容の論理性や説得力がより重要になるだけでなく、いかに効果的に聴衆に伝えるかが鍵になる。本校では各単元でテーマに基づいたエッセイライティングとペアでの発表活動を行っているが、指導法に変化を付け、少しずつ到達目標のレベルを上げていく必要がある。

また、「効果的に伝える」というねらいをもった指導を行うのであれば、生徒の活動を筆記テストやエッセイライティング以外の方法でも評価していく必要がある。英語表現Ⅱでは少人数授業を行っているため、非常勤講師を含め6名の教員が担当しており、授業の進め方や評価方法、評価規準を揃えることは容易ではない。しかし、高等学校学習指導要領の外国語の目標及び各科目の目標に「伝える」という語が多く見られるとおり、私たち英語科教員には、情報や自分の考えなどを論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える力を身に付けさせる責務がある。今後も、単元構想に基づく指導と評価の一体化を進め、長期的な視点で「伝える力」の育成と評価の在り方についての研究に取り組んでいく。

参考文献等

- 文部科学省（2009）『高等学校学習指導要領』文部科学省
- 文部科学省（2012）『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力等の育成に向けて～【高等学校版】』文部科学省
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター（2012）『評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 外国語）～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～』国立教育政策研究所

Part 4 Lesson 1 Show & Tell – “Something I cherish”

Step 1 ブレインストーミング

My treasure

Step 2 関連付け

My treasure

Step 3 構成

Introduction (Topic sentence) _____

Body (Topic sentence) _____

Conclusion (Topic sentence) _____

Step 4 肉付け

Introduction (T) _____

(S) _____

Body (T) _____

(S1) _____
(S2) _____
(S3) _____
(S4) _____

Conclusion (T) _____

(S) _____

English Expression II Show and Tell 評価表 (生徒用) 2年 組 (前半・後半)

No	名前	紹介物	内容	デリバリー
1			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
2			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
3			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
4			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
5			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
6			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
7			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
8			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
9			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
10			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5
11			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

Name()

No	名前	紹介物	内容	デリバリー
12			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

13			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

14			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

15			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

16			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

17			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

18			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

19			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

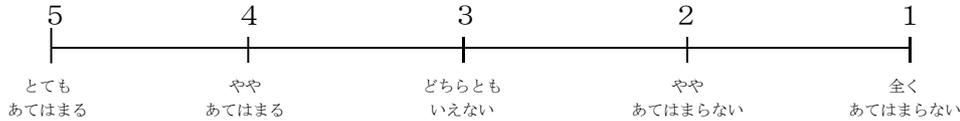
20			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

21			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

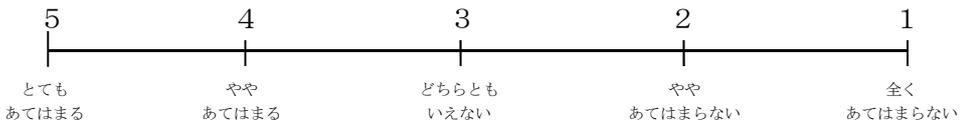
22			1 2 3 4 5	1 2 3 4 5

※このアンケートは、教員が今後の参考にするためのものであり、みなさんを評価するためのものではありません。正直に教えてください。

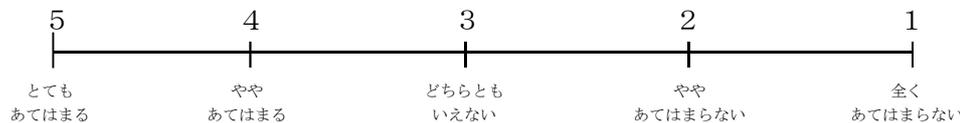
1. 原稿作成：構成に気をつけて、論理的に書くことができた。



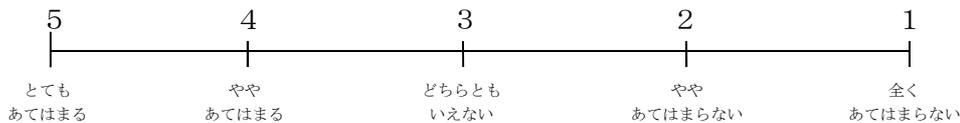
2. 練習：書いた文章を何度も読む練習をした。



3. 発表：クラスメイトとアイコンタクトをとるなどして、聴衆を意識して発表できた。



4. 発表：クラスメイトの発表をしっかりと聞くことができた。



5. 発表：クラスメイトの発表を理解することができた。



6. 評価：今回のように英語で発表する力を評価される機会は必要だ。



7. 上記6の回答に対して、なぜそのように思いましたか。

[]

8. 今後このような発表があると想定すると、それに向けてあなたがすべきことは何ですか。

[]

- 事後アンケート（7）「6の回答に対して、なぜそのように思いましたか」の自由記述回答の一部
 ※ アンケート（6）への回答別、原文のまま

(6)「今回のように英語で発表する力を評価される機会は必要だ」に対し、

5（とてもあてはまる）と回答した生徒の記述

- ・英語に関わらず、人前で発表することはこれからたくさん経験すると思うから、その練習になる。
- ・自分の意見や考えについて正しく明瞭な英語で発表・説明できることは大事。
- ・これからの国際社会でも日本の会社での英語プレゼンテーションの練習になるから。
- ・大人になった時に英語でスピーチをする機会があると思うから。
- ・これからの社会で生きていくには必要な Skill だから。
- ・これからはプレゼンテーションが大切な時代だから。
- ・英語でスピーチすることに意義を感じるから。
- ・外国でプレゼンテーションをする可能性があるから。
- ・英語を「話す」という意識が高まるから。
- ・話せないと意味がないから。
- ・将来に役立つと思ったから。
- ・グローバル社会だから。
- ・やる気がでるから。

4（ややあてはまる）と回答した生徒の記述

- ・ただ文を読んだり書いたりするだけより、このような機会がある方が英語に対する考えも変わると思うから。
- ・発表やプレゼンは社会に出ても必要とされるから。
- ・人前で話す機会を体験した方がいいと思ったから。
- ・将来的に必要だと思ったから。
- ・今後社会で必要だから。
- ・そのような機会はこれから必要だから。
- ・人前に立つという行いは、将来必要と思うから。
- ・書くだけでは英語力はつかないから。
- ・話すことができるとう将来いい。
- ・みんなの前でも落ち着いて、自信をもって話す練習になるから。
- ・力がついているのかいないのかわかるから。
- ・英語で言いたいことを言える力を身につける必要があるから。
- ・話せてこそその英語だと思うから。
- ・Show and Tell は人によって違うので楽しいです。
- ・皆の前で発表する力をつけた方が良いから。
- ・テスト以外でも実力を測る機会はいる。
- ・自分の悪いところがわかる。
- ・英語力がつくから。
- ・がんばれるから。
- ・まだ慣れないから。

3（どちらともいえない）と回答した生徒の自由記述

- ・発表した方が英語の力がつくと思うから。
- ・人の前で話す能力が必要だと思うから。
- ・発表した方が力が高まると思うけど、やりたいとは思わないから。
- ・必要かもしれないけど、やりたくはない。
- ・あってもなくてもいい。
- ・なんとなく。

2（ややあてはまらない）と回答した生徒の自由記述

- ・苦手だから成績悪くなる。